

## 三田市文化ビジョン検討事項

## ⑧ 郷の音ホールの役割

- 郷の音ホールの現状
- 郷の音ホールの役割と将来像

## I 郷の音ホールの現状

## 1 郷の音ホールの位置づけ

## (1) 第4次総合計画(後期計画)「19 生涯学習、歴史の継承と文化の創造」

○市民文化活動の多様化を踏まえた支援の仕組みづくり

・総合文化センター「郷の音ホール」を拠点に、芸術文化に関する情報の収集・発信やアウトリーチ（出前）事業の充実を図るとともに、市庁舎ロビーコンサートなども活用しながら、市民が芸術文化に触れ、表現する機会を通じて、市民文化の活性化や後継者育成の支援に努めます。

## (2) 三田市総合文化センター条例

第1条(設置) 市民の芸術文化活動の振興及び市民相互の交流を図るとともに、芸術文化の鑑賞の機会を提供し、もって市民だれもが文化に親しみ、魅力ある三田の文化を創造するため、三田市総合文化センター(以下「文化センター」という。)を設置する。

## 2 郷の音ホールが行っている支援 ※( )内は令和2年度三田市予算 単位：万円

## 【「する」を「ささえる」】

- ◆活動・発表の場の提供 … 郷の音ホールの運営(23730.5)
  - ・文化ビジョン策定関係(604.1)
  - ・運営評価委員会関係(15.1)
  - ・施設維持修繕料(4344) … 通常修繕(577)、臨時修繕(1188+補正 2179)
    - 工事修繕費(400 指定管理者負担分)
  - ・指定管理料(20946.3、文化振興事業費等を含む、工事修繕費を除く)

## ◆施設の現状とこれから(ハード面) ※別紙1グラフ参照

修繕費は、今後更に増加する見込みであり、年間で9857万円を見込んでいる。

## ◆市民の舞台発表の場となり得る場所 ※別紙2参照

## 【「みる」を「ささえる」】

## ◆三田市文化振興基金(～R元年度)

毎年5,000万円を上限として支出し、郷の音ホールの文化振興事業に4,000万円を計上。平成19年度末時点では5億5,496万円あったが、取り崩しにより、令和元年度末の残高は37万円。令和2年度からは市一般会計から郷の音ホールの文化振興事業(4000)、市民文化祭開催費(315)、文化振興団体事業費(285)を支出している。

## ◆文化振興事業の実施(ソフト面) ※別紙3参照

## ◆近隣地域にあるホールの規模と位置 ※別紙2参照

## 【「つたえる」を「ささえる」】

## ◆神楽鑑賞会の実施

## 3 市民アンケート・団体アンケートの結果からみた現状(アンケート結果参照)

- ◆市民の郷の音ホールの使い方・使われ方 別紙4参照

## II 郷の音ホールの役割と将来像

(1) 公共ホールとしての市場性について

(2) 文化振興事業の拠点として

(3) 市民にとって使いやすい郷の音ホールのあり方